

静岡県高齢者福祉研究大会

施設における 口腔ケアと感染症予防の実践

特別養護老人ホーム さつき園

特別養護老人ホームさつき園

平成16年4月16日 静岡県知事設置認可
社会福祉法人 蒼樹会が 設置運営

さつき園は、個室ユニット型 定員70名
短期入所生活介護 個室ユニット型 定員
10名 の特別養護老人ホーム

さつき園への案内図

位置



使用している口腔ケアの用具



対象者紹介

- MM様 88歳 男性
- 要介護5
- 認知症高齢者の日常生活自立度 IIIa
- 平成16年4月に老人保健施設より入所
- 入所当時は認知症により車椅子で施設内を徘徊され、あちこちへ移動しながら異食行為を繰り返されていた。
- 食べる事が大好きな方でご家族に、おやつを用意していただいた。

身体機能低下の経緯

平成17年3月に転倒され、左大腿部頸部骨折

- 手術治療を受けた事をきっかけに臥床時間が長くなり、生活に対する意欲の低下・全身の機能低下が見られるようになる。
- 身体機能の低下と共に嚥下機能も低下される。

食事の様子

	受傷前	治療後
食形態	常食	粥・刻み
水分	とろみなし	トロミ剤使用
摂食動作	自立	全介助
嚥下	良好	ムセあり

施設内検討

- ①誤嚥性肺炎の予防として口腔ケアの徹底。
- ②食事時の姿勢の見直し
- ③食事時の自力摂取を促す声掛け及び一部介助
- ④拘縮関節の他動運動
- ⑤意欲低下の改善・食事内容の検討

①の口腔ケアの徹底

毎食後の口腔ケアの際に残歯のブラッシング、義歯の洗浄、スポンジブラシや口腔ケアティッシュによる口腔粘膜の拭き取りを行ないました。

②の食事時の姿勢の見直し

- ・頸部後屈が見られた為に普通車椅子から背もたれ部分が頭部まで支えられるリクライニング式車椅子へ変更
- ・食事の時は90度へ背もたれを起こす
- ・テーブルとの位置は拳1個程度

③食事時の自力摂取を促す声掛け及び一部介助

- ・食事中に他利用者様の様子を窺い、ご自分
は摂食されない。



- ・摂食を促す声掛けを行い、介助スプーンを持っていただき、肘関節から上腕を介助者が支え、スプーンが口まで運ぶ。

拘縮関節の他動運動

- ・四肢の拘縮、筋力低下、痛みを訴えられる。
- ・摂食動作に関わる、肩、肘、手首、指に拘縮があり、右手で自助具のスプーンを持つ事は可能でも口まで運ぶ事は困難。
- ・摂食時10分程度で疲労がみられる。



- ・機能訓練指導員による関節他動運動

意欲低下の改善・食事内容の検討

甘い物が好き



- シュークリーム等、片手で持てる菓子を用意し「食べたい、食べてみたい」という気持ちを思い出していただきたいとの思いで取り入れる。

3ヶ月後の評価

肺炎の発症はみられない。
嚥下の改善に対する成果は得られず。

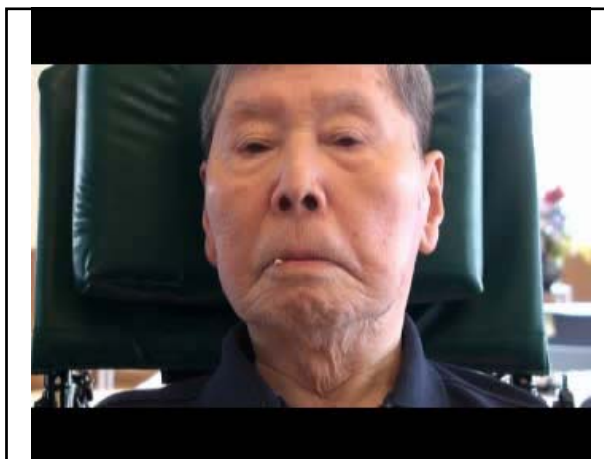
- 食事中的ムセは変わらない。
- 摂食には介助が必要
- シュークリームを右手で持って食べていたが、シューが噛み切れずに、そのまま、出てきてしまい、その後はシュークリームを食べる事はされなかった。

歯科衛生士へ相談

高齢者はシューを噛み切る事が難しく、甘い物で食欲をそそりたいのなら、饅頭の方が噛み切りやすい。

〈口腔リハビリの勧〉

- 口腔マッサージ
- 声を出す事
- 巻き笛を吹く
- アイスマッサージ



項目	月/日	月/日	月/日	月/日
肩もみ				
顎の運動				
「うー」「いー」				
「エイエイオー」				
アップアップ				
巻き笛				
肩関節				
肘関節				
舌だし				







まとめ

- 食事中の姿勢の見直しから考え始め、他職種による対応の見直しを行い、身近な介護職員がご本人の思いを受け止め、あきらめない姿勢で取り組んだことによりM様が表情良くご自分で摂食されるまで機能の改善がみられたと考えます。

- 1 さつき園では、体調管理の基本として口腔ケアの徹底を職員が意識して行っています。
- 2 M様の問題は口腔ケアを日常的に行う事で身近にいる介護の職員が義歯の不具合や飲み込みの程度、口腔内の様子を把握し、あまり目につかない部分の情報を正確に伝える事が出来た事も良い方向に進んだと評価しています。